

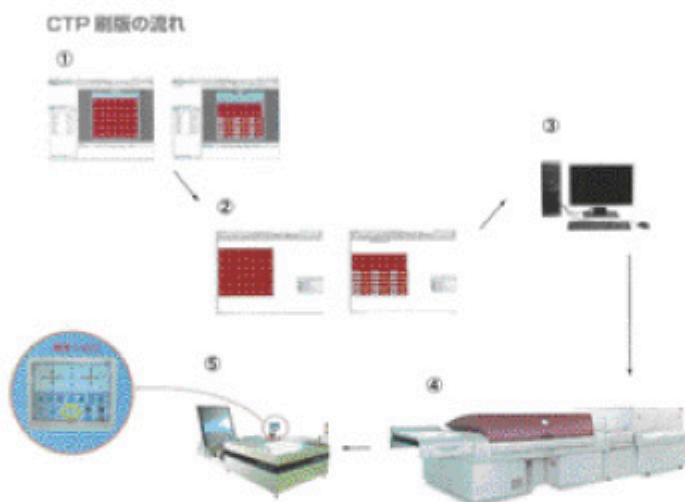
製版の基本知識を知らう!

【基本】その③ 【CTP刷版の流れと特徴】

前月号(優CANレポート第38号)掲載の製版方法その②が現在の主流となっています。

製版方法その② **データ編集** → **RIP処理** → **フィルムレス** → **校正用CTP版** → 校正
(製版作業) (プレート作成)

校正(校了)の後、フィルムレスにより製版され刷版作業に流れていきます。



- ① 作成済みデータの刷版作業を面付ソフトを使って行う。
- ② VPSサーマルプレート用のRIP処理を行う。
- ③ VPSで検版する。
- ④ サーマルプレート用に赤外線レーザーで露光し、その後は自動現像機へ(現像層～水洗層～ガム層～乾燥)
- ⑤ 最後に印刷機に取り付けるパンチ穴を開ける。(CCDカメラで位置を見て自動で行う)

【CTPシステムの利点】

- データから直接、刷版を作成するので、フィルム刷版によく見られるゴミの付着、ピンホール、網点の太りや細り、真空ボケを防ぐことができます。
- 付合刷版の場合、フィルム刷版では個々のフィルムを一枚の板に別々に露光を行いますので、見当が狂いやすい。また、露光回数にもよりますが、露光による熱でのフィルムの伸縮が多少生じます。CTP刷版では一面データとして露光しますので、見当精度が良い。
- スケーリング(線数、網点角度)を自由に変更できます。
- 網点のトーンアップやトーンダウンができます。
- CTP刷版の場合、データを管理するだけなので、フィルムのような長期保存や使用による劣化、破損、紛失等がなくなります。ただし、データを誤って消去してしまうと復元できないので、常にバックアップをとる必要があります。
- 製版作業、版直し、リピートなど仕上がりがスピードが格段に早い。

協 力/マイニユート製版(株)

平成 25 年 10 月 1 日

一般社の良さ・楽しさを発信します
全日本一般社工業団体連合会 優CANレポート 第39号